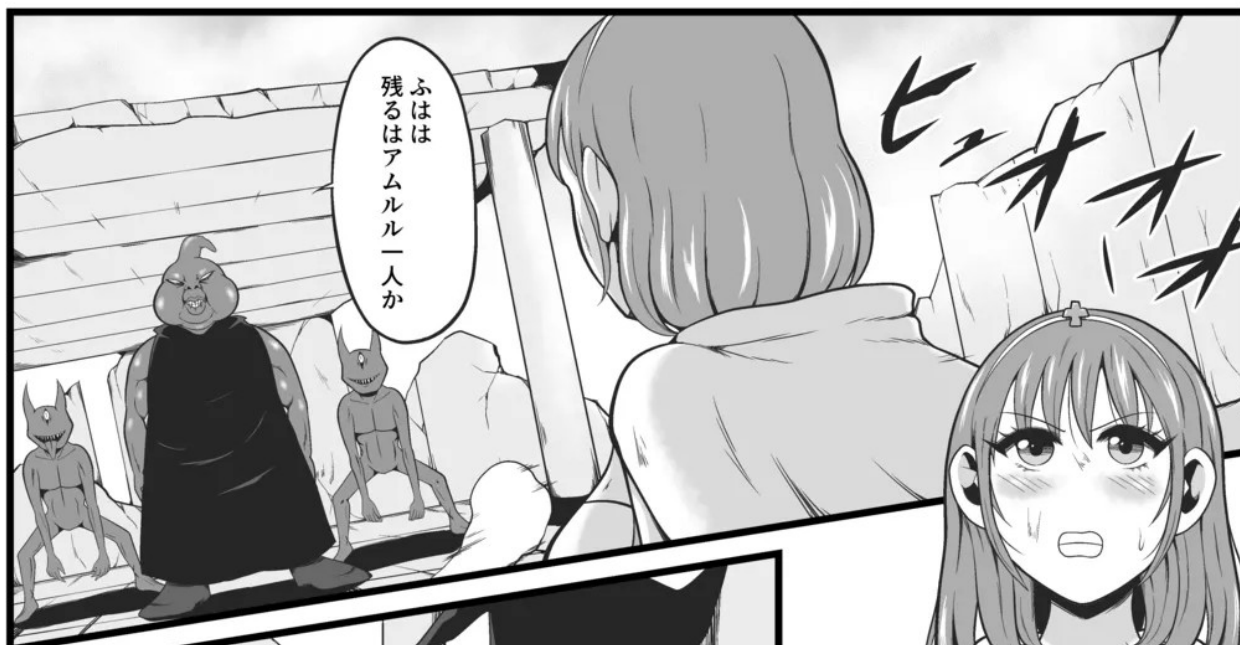


南の大地で悪の限りを尽くす
魔王軍幹部「魔神官ニクマーシ」
勇者一行は悪魔神殿に巣を作る
魔神官ニクマーシに挑み
善戦こそするものあと一歩のところまで
全滅させられかけてしまう



ふはは
残るはアムルル一人か



勇者 HP 2
戦士 HP 3
魔法使い HP 1



ちっ！くそ
このままじゃ全滅してしまう



アムルルよ
今のヒーラーのお前に何が出来る
魔力もほとんど底を尽き
やれる事など何もないだろう

魔神官 ニクマーシ

HP 128
MP 374

ヒーラー アムルル

HP 32
MP 5

ヒーラー アムルル
HP 145
MP 120

武道家 アムルル
HP 387
MP 0

アムルルは現在のパーティーに加入する前は武道家だった。彼女は己の拳のみを武器とし、ソロで魔王軍と戦っていたのだ。しかし…

勇者や今の仲間達と出会い、それまで自分しか信用しなかった彼女が、何と仲間達をサポートする為ヒーラーへと転職したのだ。

アムルルは武道家からヒーラーに転職した。アムルルは剛拳と強靱な肉体を捨てた。代わりに癒しの魔力を手に入れた！



降参して我等のしもべとなれ
そうすればお前等全員
我眷属にして一生使ってやるぞ

魔神官ニクマージは
力をためた！

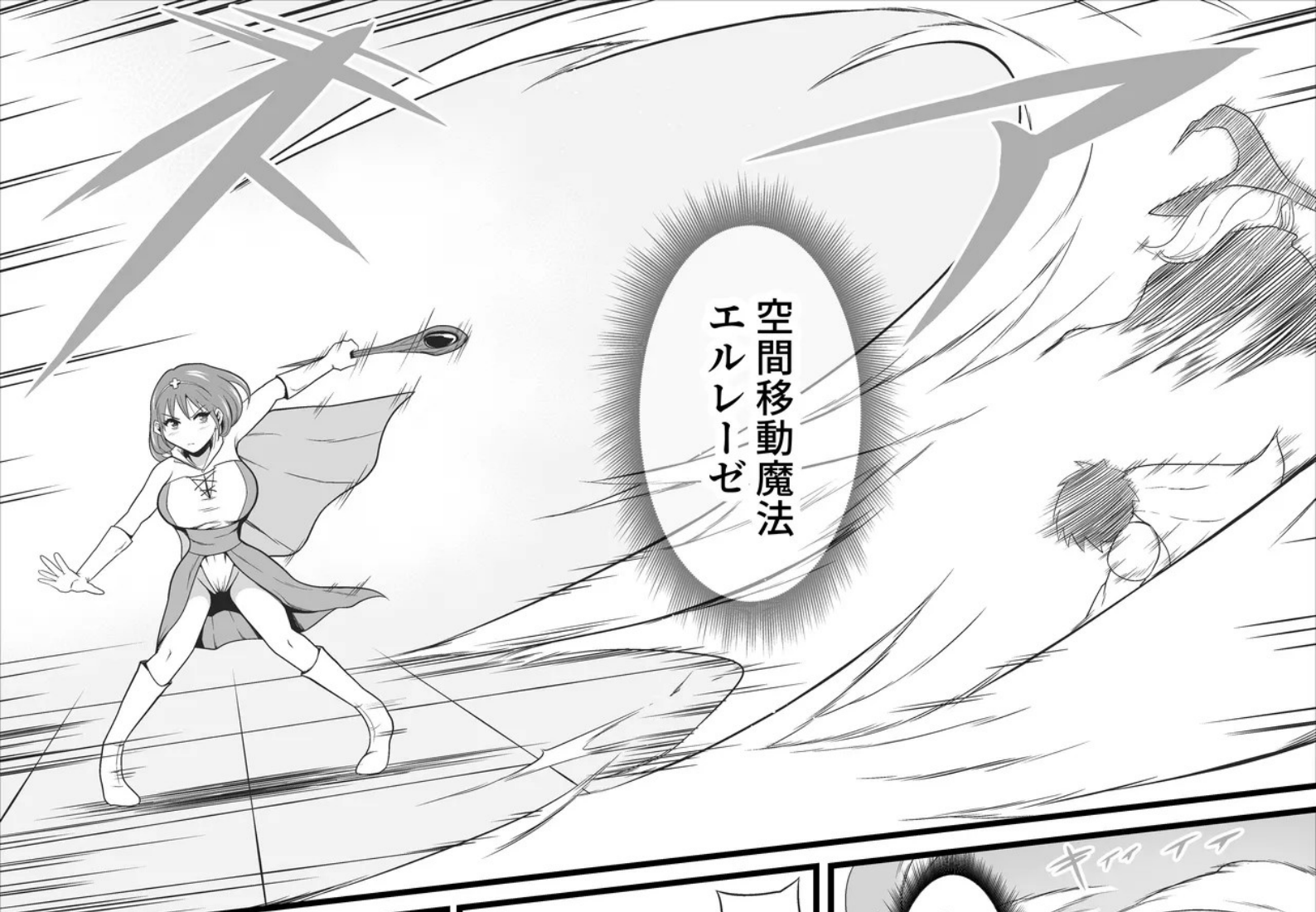
ここからやれる事を
考えるんだ
残りMPは後わずか

こうなったら
一か八か

ごめんねアスラム…ごめんね皆
あなた達まで死なせるわけには
いかないの

ヒーラーアムルルは
呪文を唱えた！

ほう面白い
ここなら何をするのか
見物してやる



空間移動魔法
エルレーゼ



私が元武道家だったこと

アムルルは全身の気を拳に集中させ
身を低く構え力をためた!



ふははは! 残りのMPを使って
自ら一人となる事を選ぶとはバカめ
それでどうするつもりだ

もしかして
忘れてないでしょうね?



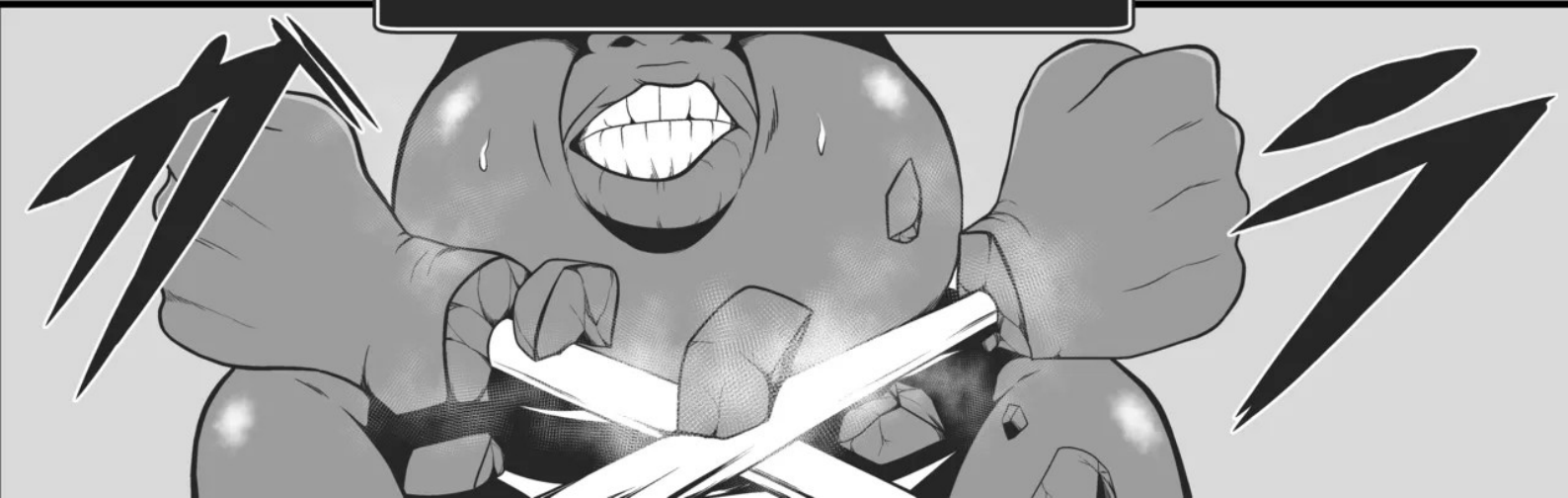
じゃーね皆

勇者アスラン達は
アルベリアの町へ移動した

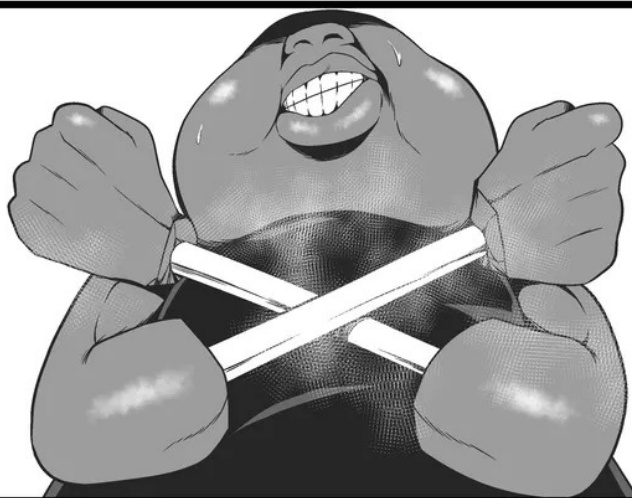




奥義 拳坤一擲を放った



やったか—





残念
惜しかったな



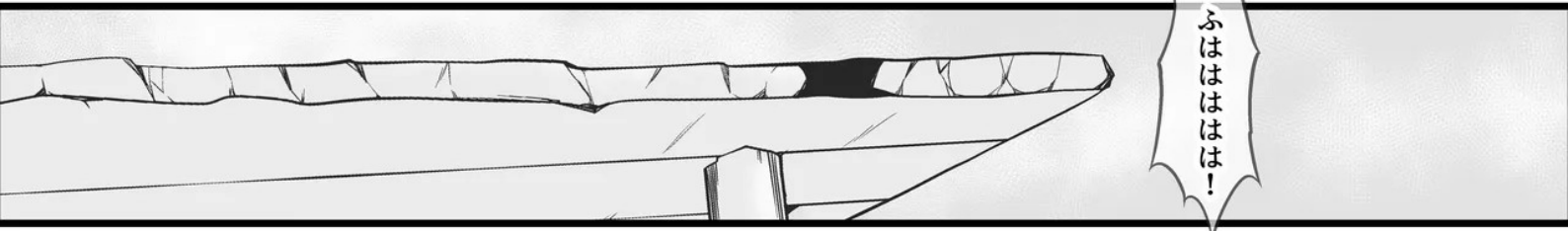
くそっ…

もし仮にお前が本来の職業である
武道家であれば俺を倒しうる事も
可能だったかもな



正直ヒヤッとしたが
俺の命にまでは届かなかったな

やるではないかアムルル
しかし碎けたのは俺の腕だけ

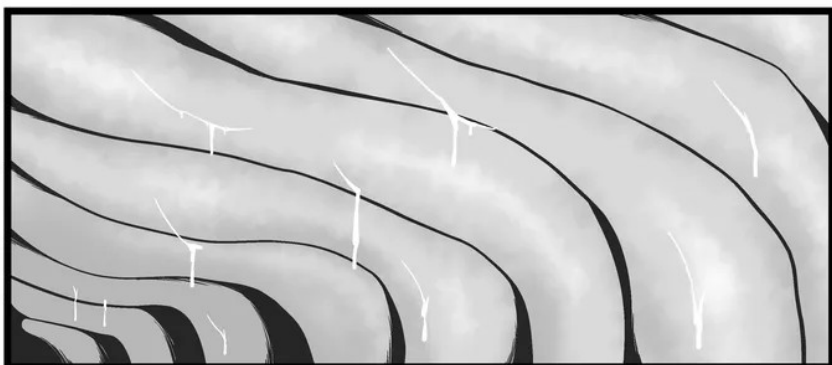


ふははははは！



ドロ

うっ…







喜べ…お前はここの肉壁の中で
俺の細胞と同化し
俺たちと同じ邪悪な
モンスターとなるのだ

うっ!?

もみ♡

じゅわ♡

アムルルは初めて
男におっぱいを揉まれた



ずっと俺の肉奴隷に
加えると決めておったのだ

武道家として戦う
お前を見たあの日から



ぬる♡

今日やっと
あの日の夢が叶う



ふざけるなバカ
モンスターになんてなっ
てたまるか!

くくく
待っておったぞこの時を…

ぬる

アムルルの身体が
少し火照り始めた

アムルルは三クマージに
身体を強く抱きしめられた

んあっ

ほおこれがああ的美女格闘家アムルルの身体か
思ったより柔らかくて女らしいな
武道家だった頃はもっと筋肉質だったのか？

くそっ！こいつ
思ったより力が強い

うぐっ！

アムルルは身体中を舐め回された
マンコが少しあつくあった

ふはははは！
どうした？非力じゃないか

この程度の腕力
武道家の頃だったら
負けなかったのに

ふぐううっ

これは実に吸い応えのある乳首だ！
ビクビクと反応して
しっかり身体は女だなアムルル

チュッポ♡

ちゅ♡

ふはははは
どうだ？俺のチンポが
熱くなっているのが分かるだろう
お前で興奮してこうなっているんだ
嬉しいだろ？

バカっ…
ふざけるなっ

アムルルは熱いペニスを
顔面に押し当てられた

うぎっ

くーにゅー♡

くそっ…悔しいけど
今の私の力じゃこいつに勝てない
だから今やれる事を探すんだ

残るMPも後僅か…
ここから出来る事は…

ヒーラー アムルル
HP 31
MP 1

よしっ
では射すぞ魔物の
子種を存分に味わえ

アムルルはパイプリさせられた
マンコが更にあつくになった

ふやあああん

ド

ド

ド

くくく
たっぷり浴びたか
その精液には生命エネルギーを
奪う力があってな
これでお前は悪あがきすら出来まい

うっ…何だこれは
力が抜ける…
残っていたMPも
全てなくなってしまった

ド

もわ

ド

ヒーラー アムルル
HP 1
MP 0

モンスター黒百足があらわれた

融合モンスター「黒百足」

おごっ…ぐえっえっ…

うっ
気持ち悪い

このモンスターは
お前の体内へと入り込み
身体の細胞と同化していく
そして黒百足の核はいずれ
お前の脳内へ達するだろう

やっ…やめろっ
来るなモンスター

アムルルはマンコに侵入させまいと
必死に抵抗した

いやあ！やめろ
やめろっ！！

ギ
ク

細胞と同化したお前の身体は
モンスターのそれとなる
そして…お前の意識が邪悪に染まった瞬間
脳に達した核が完全にお前の意識と結びつき
お前は完全なモンスターへ変貌するだろう

あぐっ…いだっ
いやああああ！！

ダメた…力が出ない
非力な自分が悔しい

あっ…ダメ
入って…



今まで色んなモンスターと戦ってきたけど…こんな屈辱味わった事ない…くそっ

ヌルヌルした熱いのが私のお腹の中に入ってきたいや…ダメ…

あつぐ… やっやめろっ…ダメ入ってこないでっんあつ…

モンスターはアムルルのマンコに侵入した
モンスターはアムルルの子宮口にキスをした



ふははははは！



悪の大幹部「黒魔獣アムルル」が誕生するのだ
楽しみでしようがないわ

入ってしまった…くそくそっ…



黒百足は体内に侵入すると早速浸食を開始して体内へと溶け込んでいく
みるみる内にお前の身体はモンスター化していくぞ

5分後――

思いの他
早く浸食が進んだな

身体が熱い…息苦しい
意識が…ドス黒い何かに
飲み込まれそうだ…
これはまずい

はあ…はあ…はあ…

アムルルの肌は
ドス黒く変色した！

いや…でも
まだこの状態なら女神殿で
元に戻す事が出来る

くそっ…ふざけるな

おいしいぞアムルル
最高にキレイだ
俺達モンスターにどんどん
近づいていっているぞ





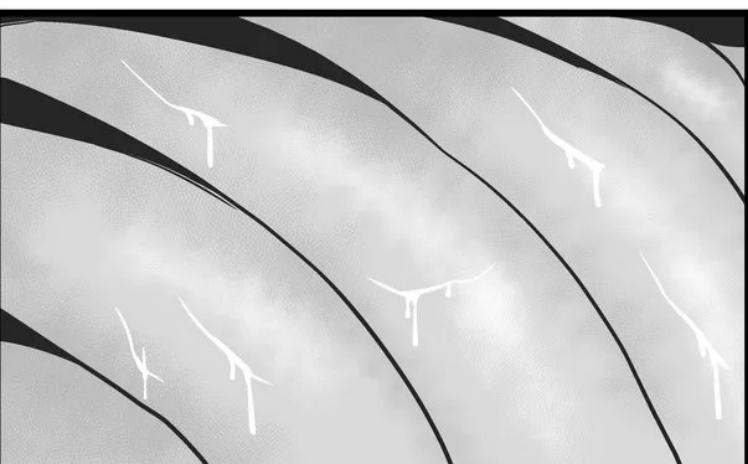
ふははははは！
憎いだろう何もかもが
そうだ壊すんだ！
モンスターとなって何もかも
壊してしまえ！



違う…私は
勇者アスラムパーティーの
ヒーラーアムルだ



やはりこれでは堕ちんか
ならばもっと増やすまでよ



殺せ

うぐうあつ…憎しみと
殺意の音が聞こえる

憎い

スロセ

ドス黒い憎悪の感情が
私の中に流れ込んでくる
苦しい…

殺せ

ウッ

ウッ

ババ

憎い

ウッ

アムルルは呪いのアイテム
死霊の首輪を装備した
淫魔のレオタニドを装備した
死神のマントを装備した

ふはははは！
最高の姿だアムル
もはやモンスターそのものではないか

శు శు శు శు... శు...

これは…ダメだ…もう
意識を保つだけで…やっと…

あれ……私……って
誰だっけ……

あれ…私…って
誰だっけ…

おおいぞ
浸食率がドンドン高まっていく
もう少しだ！さあそのまま
飲み込まれて楽になってしまえ

けけけ：殺してしまえ

そうだ…
私はアムル

そして目覚めよ
狂戦士“黒魔獣アムルル”

これは…私がアルベルノアの町の場所を知りたくて一時的にアスラム達のパーティーと共闘していた時だ…

ふゝ危なかったな
アムルル

余計なお世話だ
今のは油断していた私が悪い

何言ってるんだよ
仲間を助けるのは当然だろ

仲間と呼ばれたのが何だかむず痒くて強がってつっぱねた…

仲間？
バカめ勘違いするな

でも一緒に旅をする内に—

オラオラ
ぼさつとすんな
アスラム！

悪い
助かった！

幼い頃から自分だけを信じて一人で戦ってきた私—そんな私が

サンキューな
アムルル！

初めて人にちゃんと名前を呼んでもらえた気がした

仲間—

まあ…意外と悪くないのかもな

そうだ…彼らは私の…

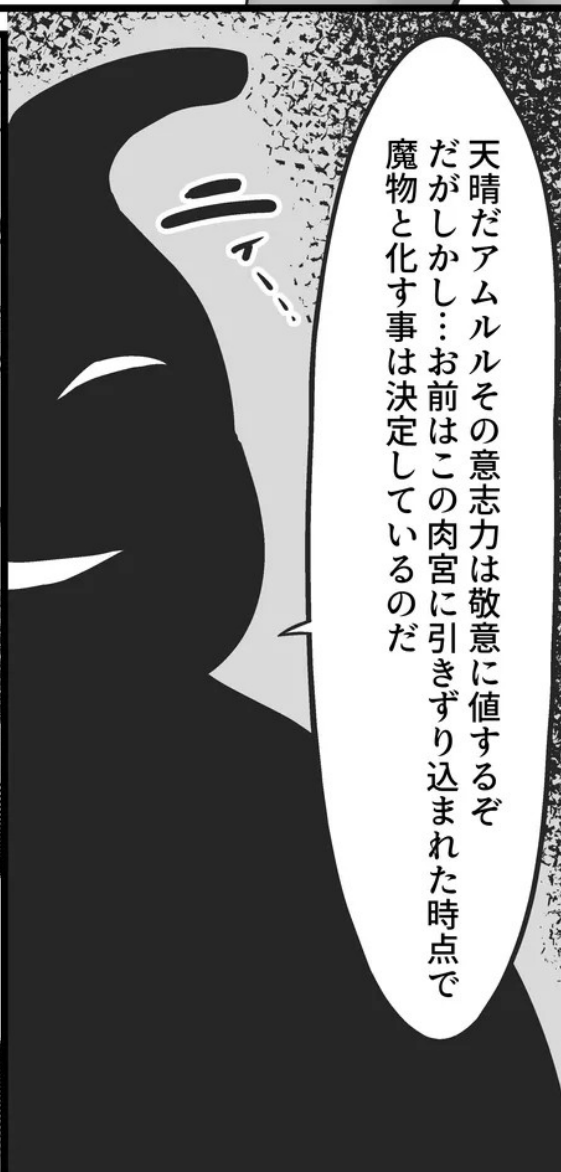
アムルルは邪心を振り払った
アムルルは再び正気を取り戻した!

私はアスラムパーティーの
ヒーラーアムルルだ!
この程度の邪心には負けない!



黙れ!もはや私には何も通用しないぞ
お前達には負けない

そうよ
仲間達の思いがある以上
私は決して:



天晴だアムルルその意志力は敬意に値するぞ
だがしかし:お前はここの肉宮に引きずり込まれた時点で
魔物と化す事は決定しているのだ



!?



これは:こいつは驚いた
あそこまで浸食されていたのに
元に戻ってくるとは

ニクマージは最終兵器
ドスグロチンポを出した!

オ

えっ!?

やはり女を堕とすには
最期はこれよ♥



アムルルはニクマージに熱く抱きしめられた
アムルルはドスグロチンポを腹に当てられた

ニコマージのドスグロチンボは
アムルルのマンコを買いた
アムルルは今まで大事に守ってきた
処女を奪われた！

ひぎいっ！！

ブルン♡



いぎいっ…
あっあああ

なっ…なんだこれは
想像していた何倍も
強烈なっ…

ブル♡

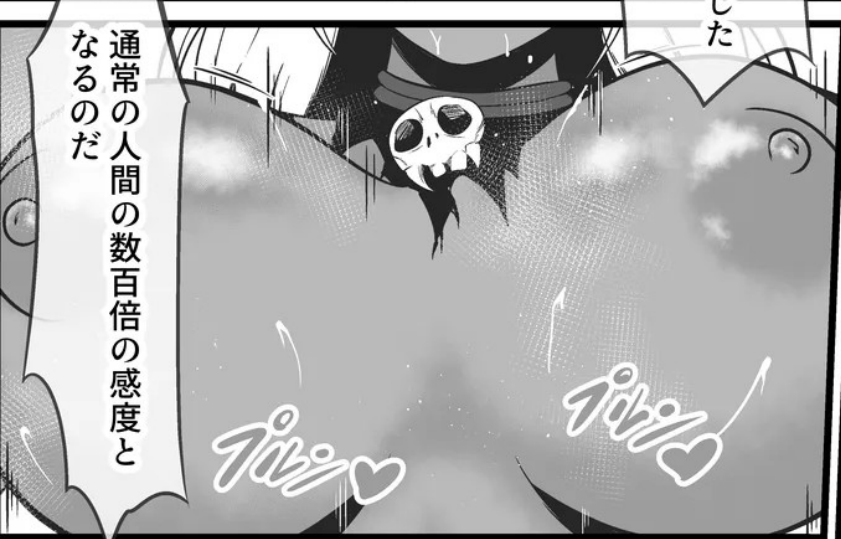
ピッ♡

アムルルは今まで味わった事のない
快楽に身悶えした！！
アムルルの身体は子宮を中心に熱くなり
全身から汗と女のフェロモンを吹き出した





とてもつない快樂だろうアムルル
黒百足と同化する事でモンスター化した
お前の身体はより本能的になり



通常の人間の数百倍の感度と
なるのだ



さあどうだ？
そろそろ邪悪な感情と快樂が
結びつき始めたんじゃないか？

ドス黒い感情が
また頭の中に溢れてきた…



はっ♡はっ♡はっ♡
んっ♡ダメ♡やめ♡て

うあああああつ…
ダメ♡気持ち悪いのと
気持ちいいのが…
ごちゃごちゃになつて…



あっ♡やっ♡

やだ…何これ
こんなの味わった事ない
太くて硬いおチンコで
突かれる度に…変な声が出ちゃう

あっ♡ん♡あん♡
あっ♡やっ♡やめて♡

何これ…すごい
すごく嫌なのに…嫌なはずなのに

アムルルは初めてメスの喘ぎ声を出した
おチンコの抽挿を繰り返された度に
とてつもない快樂の波に襲われた！

ダメだ…違う…
私は…皆の所へ…帰るんだ…

人間として…ヒーラー…
アムルルと…し…て

さあイケ！イってしまえ！
そしてモンスターとなるのだ
アムルル！

いやああああ

やめっ…やっ
ああああああんっ

やめろっ…これ以上
おチンコで突かれたら
私は…もう…

アムルルは女と半モンスターの
エロいフェロモンを撒き散らしながら
ドス黒い感情と快楽で絶頂に達しかけた

私としての…意識を

保てない…あっ…

ダメだ…もう
気持ち…

んあああああ



アムルルはニクマージの濃い精子を
子宮にたっぷり注ぎ込まれた
アムルルは72%の確率で
モンスターニクマージの子供を
妊娠する事となった



んっ...
♡

んあっ...すい...すぎる...

ゴポ♡





あつ...

グシ...

アムルルの心は完全に悪に堕ちた
アムルルの身体は魔物へと変形し始めた...



ぎぎぎ...がががああ...

さあ魔物として目覚めよ
狂戦士モンスターアムルル

プシュー



ふうふうやく堕ちたか
全く世話を焼かせおって

きり...きり...きり...きり

ぎしやあああああ!!

アムルルはもはや人ではない
魔物の雄叫びをあげ
全身から体液を吹き出しながら
不気味な音を立てて変形していった



さあどうだアムルル
生まれ変わった気分は?



おお立派な羽だ
強くてエロい
最強のモンスターの誕生だ

最高の気分ですニクマージ様
私をこんなステキな姿にしてくれて
ありがとうございます❤️

このモンスターアムルルは
生涯貴方の眷属としてお仕えますわ❤️

くくく…
それは頼もしい限りだ
精一杯俺に尽くすのだぞアムルル

アムルルはモンスターへと生まれ変わった
もう二度と人間に戻る事は出来ないだろう…



装備も整って
様になっているじゃないか
アムルル

はあ、早く人を切り刻んで
肉が食べたいわあ♥

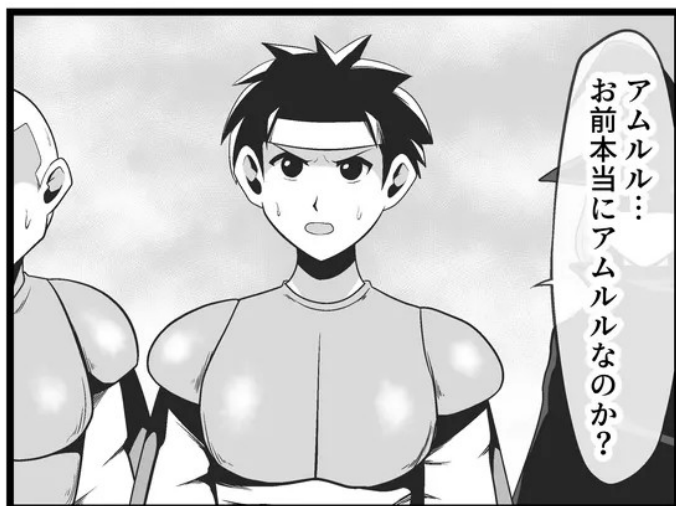


ニクマージ様
私に早く命じて♥

うむ…では



勇者アスラム一行を見つけ出し
皆殺しにしてこい！
行けモンスターアムルル



アムルル：
お前本当にアムルルなのか？



そうよ私はアムルル
魔神官ニクマージ様のしもべ
黒魔獣アムルルよ

お前達の肉は私のモノよ
今切り刻んで食べてあげるから
覚悟しなさい♥

魔物のむれがあらわれた
黒魔獣アムルルが二匹あらわれた